

令和 8 年度第 1 回学校関係者評価委員会議事録

鹿児島県立種子島高等学校

1 日時 令和8年7月22日(水) 13:45~15:00

2 出席者 計 15 名

(1) 学校関係者評価委員(4 名)

- ・公立中学校教頭(中学校代表)・市役所職員(地域代表)・校区長(地域代表)
- ・本校PTA会長(保護者代表)

(2) 職員(11 名)

校長 教頭 事務長 各部主任(教務・生徒支援・進路支援・保健)、教務企画係 1 名
各学科(普通・生物生産・電気)主任

3 議事内容

(1) 校長挨拶

グラウンドデザインは令和6・7年度を踏襲しつつ、令和8年度は校訓・グラデュエーションポリシーの一つでもある「寛恕」を焦点化している。「寛恕」の精神を養うための象徴的な行事である、カシミア号遠行を復活することができた。史実とその当時の人々の思いを今の若者にも受け継ぐことが、教育活動にも生きてくる。また、「敢えて束になる」という言葉で生徒・職員に発信している。考えや価値観が違う者同士で手を取り合うことが大切であり、それが希薄になると様々な問題が起きると考える。生徒と職員が共に人権感覚を磨きながら、夢や希望を実現するために努力していきたい。

(2) 各部・各学科より説明

4 委員からの意見・質問

・下宿生や中種子・南種子から通学している生徒の人数は？

→ 下宿生は地域みらい留学制度を利用して、県外から入学している生徒が5名。中種子町からの通学生徒は0名、南種子町からは1名。

・スマホの利用について、生徒指導上どのように取り扱っているか？

→ スマホの校内への持込は許可制としている。校内に入る際は電源を切るよう指導しているが、徹底されていない場合もある。現時点では特に大きなトラブルはない。問題が発覚したら、生徒支援部を中心に説諭や指導を行っている。

・貸与タブレットはあるか？

→ 学校から貸し出すこともできるが、ここ数年は生徒が購入する形としている。

・タブレットがなくても授業に支障はないか？(タブレットの使用状況について)

→ 各教科によって状況は異なるが、保健体育では活用している。

→ 生物生産科:調べ学習等で活用しており、生徒は生成 AI も利用している。

→ 電気科:生徒一人一人の実態や個性に応じて活用している。

・タブレットや生成 AI の活用の機会をもっと増やして欲しい。

・タブレットではなく、手帳を活用している理由とは？

→ 全生徒に対して活用を勧めている。目的は2つある。

①講演会や集会等での内容を記録し、見返すことで思考を深めるため。

②学習時間を記録する習慣を身につけるため。

→ 「書く」という行為も大切にしていきたい。

・種子島高校の魅力について、中学生に伝えたいことは？

→ 普通科:利点は親元で生活し、通学できること。進路がまだ明確でない生徒こそ普通科への進学を勧めたい。多様な進路希望に対応できる進路選択の幅の広さも魅力である。

→ 生物生産科:6部門を有する農業科は県内でも珍しく、実習等を通して幅広く学ぶことができる。

→ 電気科:ほとんどの生徒が中学時代から一緒なので、わからないことを生徒間で教え合う環境が整っている。また三菱重工への就職実績もある。名古屋で数年間勤務した後、南種子町の宇宙センターで働くこともできる(西之表市が三菱重工と包括連携協定を結んでいる)。

・生徒・職員数は？

→ 生徒221名、職員53名。

・部活動の外部指導者について

→ 基本的に本校職員が顧問を務めている。卓球・陸上・ソフトテニス・写真・剣道部については外部指導者にも協力してもらっている。

→ 部活動の外部指導については、単独での指導や引率も可能な「部活動指導員」と、「外部指導者」と2種類がある

→ 「部活動指導員」は卓球部のみである。

・委員の感想

- ・卒業生の声を聞くと、種子島高校で充実した学校生活が送れているようで嬉しい。また、中学時代に不登校だった生徒も高校では頑張っているようで安心した。中学校としても、将来、学んだことを生かし、将来、故郷に還元できる人材を育成していきたい。
- ・市役所とのコラボ企画などを通して連携を深めていきたい。
- ・委員として、在校生や卒業生が誇りを持てるように頑張っていきたい。
- ・子どもがやりたいことに挑戦できる環境をつくってもらって感謝している。